

(様式1)

## 令和2年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校  
校長 田鶴 直人

### 1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

### 2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

### 3 教育方針

- (1) 生徒の人格の形成を目指し、人間力を高める。
- (2) 高等教育を通して、新しい時代に適応できる資質・能力を持った生徒を育成する。
- (3) ものづくりの基礎基本を身につけ、創造性豊かな生徒を育成する。

### 4 今年度の重点目標

- (1) 「整理」と「整頓」をキーワードとし、生徒指導・授業内容・業務内容・勤務時間等を自ら見直し、改善を図る。
- (2) シラバスを意識し主体的・協働的な場面を工夫することで、知識・技能の習得とその活用による思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- (3) キャリア教育や人間教育を強化し、急激な社会的な変化にも対応できる生徒を育て、個々の適性に応じた進路の実現を図る。

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
1 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	① 自学の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、自学の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 宿題や課題等に取り組む自学時間を毎日1時間以上確保できる生徒の割合を50%以上にする。	宿題や課題等に取り組む自学(授業以外で取り組む学習)を毎日1時間以上取り組むことができた。 A. 1時間以上取り組んだ B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 7.5% B: 23.7% C: 38.2% D: 30.5%  (生徒アンケート)	A+Bの結果は昨年度に比べると10%増えたが、家庭学習時間は不足している。引き続き、各教科や学年と連携しながら家庭学習の習慣化に向けて働きかけたい。
	② 朝学習、放課後・夏季休業中・定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝学習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝学習や補習授業にしっかりと取り組むことができた。 A. 十分取り組むことができた B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 43.9% B: 40.1% C: 14.1% D: 2.0%  (生徒アンケート)	A+Bの結果が84%と昨年度に比べると6%増え、定着しつつある。朝学習では、C+Dの生徒の取り組めない原因を探り、解決を図っていきたい。
	③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	習熟度別授業は自分の学力に合っていると思う生徒の割合が全体の A. 60%以上であった B. 50%～59%であった C. 40%～49%であった D. 40%未満であった	C・Dの場合は方法を再検討する。	A: 45.3% B: 43.5% C: 8.8% D: 2.4%  (生徒アンケート)	本年度はコロナウィルス感染防止のための休校等で習熟度別の授業を始めた時期が遅く、対象クラスも例年より減で行うこととなった。A+Bの結果が88%と昨年度(85%)と同等である。引き続きクラス毎にそのクラスに合う習熟度の構成をとっていきたい。
	④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部・学年主任・担任・生徒・保護者による面談を行う。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒・保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒・保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 7.3% B: 72.7% C: 20.0% D: 0.0%  (教員アンケート)	A+Bの結果が80%と昨年度に比べると5%増えた。成績処理システムから印刷できる資料には生徒指導に活かせるものもあるため、教員への周知を図っていきたい。
	⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知・把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 A 十分周知された B 一応周知された C あまり周知されなかった D 周知されなかった	C・Dの割合が40%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 34.5% B: 60.0% C: 5.5% D: 0.0%  (教員アンケート)	A+Bの結果が94.5%と昨年度に比べると10%増えた。グループウェアの掲示板的利用により周知がしやすくなったことが要因である。今後も掲示板での周知と、朝礼での伝達と合わせて行っていきたい。
	⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率、進学決定率	就職決定率、進学決定率が A 両方とも98%以上 B 一方は98%以上、一方は95%以上98%未満 C 両方とも95%以上98%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	就職率 100%	就職においてコロナ禍の中、新しい取り組みなどを含め臨機応変に対応でき就職決定率100%となった。
	⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指数】 蔵書の充実と本の貸出冊数の増加を目指す。	一人当たりの貸出冊数が2.5冊を上回ることを目指す。 A 上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。B以上を目指す。	B(2.45冊)	目標値とほぼ同じであった。次年度は読書量の一層の増加を目指し、さらに有効な取り組みを検討する。

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
2 社会への対応力、及び人間力(規範意識、公共心、リーダーシップ等)の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B(平均4.2人)	本校教職員の有志によって早朝からの傘さしゼロ運動を実施している。今年度は学校周辺にだけ小雨がばらつくことが数日あり、カッパ未着用の違反者が多くなった。小雨でもカッパを着用すること、時間に余裕をもって行動することを年度初めに連絡していく。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	A(2人)	今年度は、換気指導で教員が教室にこまめに顔を出していたことなどもあり、違反者は例年に比べて少なかった。来年度以降も朝や昼の巡視を継続し、違反者が増えないようにしていきたい。また規範意識の向上も継続して促していく。
	③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B(平均1.5人)	生活習慣の乱れから遅刻する生徒が多く見られた。遅刻時に話を聴き、時間を守ることの大切さを説いていきたい。また、3年生の進路決定後の10月以降に全体の30%の遅刻数が占められている。人としての成長を促す指導を心掛けていく。
	④ 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80%以上 B 70～79% C 60～69% D 60%未満	70%未満の場合改善を検討する	A:68.0% B:29.1% C:2.8% D:0.0%  (生徒アンケート)	ほとんどの生徒が自ら挨拶はできている。さらに質を高めるため、元気な声でしたり、目を見てしたりなど気持ちを込めた挨拶を目指していく。
	⑤ いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】 担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 A. よくははまる B. まあまああてはまる C. あまりあてはまらない D. あてはまらない	C・Dの割合が30%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A:43.6% B:56.4% C:0.0% D:0.0%  (教員アンケート)	いじめアンケートや面談を利用して、生徒の実態把握に努めるとともに、生徒の些細な変化にもこまめに声かけをしていく環境作りをしていく。また、生徒の情報共有しやすくするために、チーム援助シートを活用するなどの態勢を浸透させていく。
	⑥ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A. ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B. だいたい行うことができた C. あまり行わなかった D. ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A:66.9% B:31.5% C:1.3% D:0.3%  (生徒アンケート)	良好な結果ではあるが、今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルの大切さも考えさせていきたい。
	⑦ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A:26.0% B:56.5% C:8.5% D:8.9%  (生徒アンケート)	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による休校措置の影響で、学校生活への不安や生活の乱れ、ゲームやSNSの長時間利用による不適応が多く見られた。今後も保護者や教員間の連携を図りながら生徒の多様な悩みに応えたい。
	⑧ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	C (切り傷2件、軽い火傷2件、右手人差指挫傷により救急搬送1件)	救急搬送した件について、荷物を運び降ろす際に地面と荷物との間に指を挟んだという事故であった。幸い大事には至らなかったが、危険予知が不足していたと感じている。注意喚起とKY教育を徹底する。

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
3 部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A:93.5%	本年度は、運動部461人、文化部203人、未加入46人であった。新型コロナウイルス感染症による影響で部活動が制約を受ける中、感染対策を実践しながら、生徒の主体的な活動を実施できた。
		【努力指標】 引き続き、高い1年生年度当初の部活動加入率の維持を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A:92.9%	本年度は、運動部160人、文化部62人、未加入17人であった。部活動紹介用スライドを休校期間中に配信したことや休校明けに部活動見学会を企画したことが功を奏した。
		【成果指標】 県大会以上の大会で優勝する部活動数の増加を図る。	県大会以上の大会で優勝できた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	B:5部	本年度は、水球部、弓道部、剣道部、バドミントン部、新体操部の5部が県大会優勝以上の成績を収めた。新型コロナウイルス感染症の影響で大会中止が多かったが、練習を改善させて頑張った。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	A:39.6% B:42.7% C: 8.9% D: 8.8% (生徒アンケート)	本年度の部活動に対する充実感は、A+Bで82.3%と高かった。生徒が主体的に取り組み、充実感を持てるように、壮行式や伝達表彰式などの活動を通して、部活動の支援を行う。
	② 応援練習と応援実践を通して、学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 生徒が自ら考えて応援を指導する。	全クラスの応援委員の人数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	Dの場合は、対策を検討する。	1年:119人 2年:113人 3年:97人 合計:329人	本年度は、329人の応援委員が集まった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、活動を行うことができなかった。次年度は、応援委員の活動を実施できるように尽力する。
		【満足度指標】 応援を通して、愛校心を高めることができた。	応援に参加して A 大変実感できた B 実感できた C あまり実感できなかった D 全く実感できなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	アンケート不実施	本年度は、新型コロナウイルス感染症の予防対策により、応援活動を中止した。次年度は、感染症の状況を把握しながら、予防対策を実施して、応援活動を行えるように、企画・運営を行う。
③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 金工祭を盛り上げるために、主体的に取り組んだ。	金工祭での活動に A 主体的に取り組んだ。 B 少し主体的に取り組んだ。 C あまり主体的に取り組めなかった。 D 主体的に取り組めなかった。	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A:50.0% B:39.6% C: 8.5% D: 1.9% (生徒アンケート)	本年度は、A+Bで89.6%の生徒が主体的に金工祭に取り組めたと回答した。特に、新型コロナウイルス感染症によって、学校行事の中止が多かった中、様々な感染症対策を実施して、金工祭を開催できたことが良かった。	
④ ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	D:12人	本年度は、新型コロナウイルス感染症により、金沢マラソンなどの行事中止が多かったため、ボランティアの参加人数が少なかった。次年度は、感染状況を踏まえながら、ボランティア活動への参加を促す。	
⑤ 集会等で校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A: 5.6% B:42.6% C:42.6% D: 9.0% (教員アンケート)	今年度はコロナ禍にあって十分な練習が出来ず、全校応援する機会もなかった。特に1年生には、これまで築き上げてきた評判を継承していきけるよう、本校に誇りを持ちながら校歌が斉唱できるように、今後も行事や全校集会を通じて指導していきたい。	
⑥ 高校生ものづくりコンテスト大会(旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等)及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指標】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会(ブロック大会入賞) C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	B 【機械科】 各種大会が中止となった。 【電気科】 各種大会が中止となった。 【電子情報科】 各種大会が中止となった。 【建築科】 各種大会が中止となった。 【土木科】 測量:代替大会1位	今年度はコロナ禍にあって感染拡大防止のため、コンテストは実施されなかった。代替大会もほとんど実施されなかったが、測量については代替大会が開催され、優勝をすることができた。 来年度は今年度に校内の活動から課題点を見直し、日々の活動に反映させて、北信越大会優勝、全国大会出場を目指したい。	

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など	
4	キャリア教育（インターンシップ、資格取得等）を強化し、生徒の適性に合った進路の実現を図る。	① 就業体験学習、工業人養成企業実習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習、工業人養成企業実習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C、Dの場合は事後指導をしっかりと行い、次年度の事前学習について検討する。	なし	今年度は新型コロナの影響により未実施となった。来年度の状況によるが、実施する方向で検討し、事前学習や発表会についても進路意識に結び付けよう指導していく。
		② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	C (50人) M:6 E:22 R:8 A:8 C:5	例年通りとほぼ同等の人数である。各工業科だけではなく、全科横断的に技能検定や資格を積極的に取得するような呼びかけを増やしていく。